

♪.....,*,.,*,♪
■ピカソ通信 2003年8月1日号 Vol.49■
.....☆:~
.....'*'..'*'

チョコボールの金のエンゼル並みのラッキーな夏にしよう！号。 'i,.,
.....:※:
等幅フォントでご覧ください: '...'

♪.....: :♪
.....:

◆◆◆◆
◆ ♪ ◆ ■ from PICASSO ■
◆◆◆◆

夏がまた来ましたねっ！

毎年、「記憶にある何度目の夏かな？」と考えていたのが、いつからか「あと何回、夏を迎えられるかな？」になってしまったこの頃です。（笑）

秋の哀愁感をたのしむためにも、この夏は必要以上にはしゃぎましょう。

by 辻畑鉄也

◆◆◆◆
◆ ♪ ◆ ■ 特集：みしま&バグダットインタビュー “後編” ■
◆◆◆◆

前回に引き続き、みしま・カオルさんとバグダット・ギターさんのインタビューをお送りいたします。

☆☆ 彼を作ったもの / 彼が作るもの。 ☆☆

——バグダットさんがPROJECT PICASSOに参加したきっかけは？

バグダット(以下「B」):

『Beach Fighters』の『寺尾玄』君を通じて、辻畑さんと知り合いました。

その時の辻畑さんの第一印象は、『大人の人なんだなあ』でした。

今でも憶えています。

——アーティスト「バグダット・ギター」のルーツってのが気になるんですけど、どの様な有名人から影響を受けて、現在のバグダットさんがおられるのでしょうか？

例えば子供の頃好きだった曲とか、大好きなアーティストとか....

B: なんといっても、『筒井康隆』。

間違いなく、あそこで形成されているの、俺の人生は。

いろんな音楽....よりもむしろ、彼だね。彼にかなりの影響を受けてる。

あと、ピカソの御三方には、仕事の進め方という上で、影響を受けています。それと、『みしま・カオル』のガッツにも。

——おとし「music.co.jp」で配信された4曲を聴いたのですが

(MOMO~Pippi/歯ブラシ/春風/アメリカ)

クールなフュージョン系のインストからレゲエ調の唄モノまで、いろいろあってびっくりしました。

バグダットさんの、オススメどころを自己PRしてください。

B: 徹底的、尚且つ、攻撃的に、自分も傷つく覚悟で、ある特定の人物に向かって、歌ってます。

けっしてリラックス出来る曲じゃない。癒しと反対のベクトルに向かってる音楽です。あまりお勧めはしません。(笑)

——アマノジャク....なんですね。(^^;

B：そうそう、よくガキの頃言われたよ、アマノジャクって。あの頃は意味分からなかったけどさ(ニヤリ)

◎◎◎ 横で、みしまさん大爆笑。

——ソロユニット「バクダット・ギター」として今後、どんな感じのサウンドを追求していきたいですか？

B：新しいギターチューニングの探求。そこから新しい楽曲をつくりたいのと、あと、コード進行からの開放。
とにかく、決まりきったパターンから開放されたいの。

——ところでバクダットさん、ライブで“ご自身が唄う”予定はないですか？

B：そうねえ・・・10回に1回の割合で歌おうかと。(笑)
それにあった人は、チョコボールの金のエンゼルが見つかったぐらいラッキーかも？

☆☆ 彼女を作るもの / 二人が作るもの。 ☆☆

——さて、このところずっとお二人で組んで活動されてますが、どういうきっかけでそういうことになったのですか？

みしま(以下「み」)：

なんだったっけなあ....はじめ、サポートをお願いしたのは私なの。
で、それから一緒に曲作ることになったりして。
こうして活動し続けられるのは、まずなにより楽しいし、あとすごく気が合うしね。大元はきっと“縁”だね。

——みしまさんから見た、バクダットさんの印象はいかがですか？

み：初めて会ったのは「祭り」の時なんですけど『う”っ、なんて怖そうな人。絶対、話しなんて出来ない』って思いましたね。
で、今の印象は『すごく繊細で情熱的』でしょうか？
彼のギターPlayも大好きです。

——では、バクダットさんから見た、みしまさんの印象は？

B：第一印象は『カワイ子ぶっている?...けど、内面はガッツのある人だなと思った』、です。あともう一つあるけど、それはココではナイショ。
今の印象は『勘がいい。こちらが言ったことに少し考えてパパッと返してくる....賢い!、そしてガッツのあるコ、なんだけど、内面は可愛いコ。』だったりする。

◎◎◎ “ナイショ”の部分、後でこっそりお聞きしましたが
横で聞いていたみしまさんは大爆笑でした。
オフレコということで、ここで書けないのが残念!

——みしまさんは2年前にデビューCDS「SAYONARA NO.5」を出されて、当時はラジオやイベントへの出演が多かったですが、去年の秋頃から、都内のライブハウスへの出演が増えてきましたよね。
ライブ活動中心になったというのは何か、心境の変化でもあったのでしょうか？

み：そうね～、とにかく実力と実績をつけたっていうのが、一番の原動力かな？ そのために今自分で出来ることを精一杯やろうと思ったからですね。

——「SAYONARA NO.5」では、割とフレンチポップス的なイメージが強かったよ

うにと思いますが、今後、アーティスト「みしま・カオル」として、どんな感じの音楽を目指していきたいですか？

み：今は吸収段階で、まだどこに向かうか、自分でも見つけられていません。最初の頃はいただいた“もの”を自分の“もの”にしていだけだったから、これからは、自分が興味があるもの・好きなもの・嫌いなものを自分で分かるために、いろんなことを知る・蓄える作業をしています。で、そこから自然にこれだって思うものを見つけれたら....いいなって思ってます。

——では最後に、「ピカソ通信」読者の方へメッセージを。

み：これからもライブ活動をしていきますので、都内近郊でライブに来られそうなみなさんは見に来てくださいね。

みしま・カオルの今後にご注目ください！よろしく☆

☆☆ インタビューを終えて。 ☆☆

町でいろいろと音楽関係のインタビュー記事を読むに、まだ活動歴の浅いミュージシャンが自身の音楽性をたいそうに語っている記事が多いなあ....と感じることが多いのですが、それに比べて、自分のことを「今は吸収段階で、まだどこに向かうか、自分でも見つけられていません」と評したみしまさんのコメントは、素直で新鮮な印象を受けました。まだ駆け出しのインディーズアーティストとしては、むしろ、これが本音じゃないかな?....と思ったほどです。

ご自身は控えめな物言いをされていますが、7月6日のケーブルテレビ出演は実は、系列ライブハウスでのステージが好評だったことから実現したもの。長らく出演している常連アーティストであっても、テレビとなるとなかなかハードルが高い様ですが、彼女はわずか3回のステージで、出演の切符をゲットした....という曰くつきなのです。アーティスト「みしま・カオル」は確実に、日々成長していると思いました。

そして、今回が初めてのインタビューとなったバクダットさん。実際にお逢いするまでは、やっぱり『う”っ、なんて怖そうな人。絶対、話しなんて出来ない』という印象でしたが(笑)、実際には非常に気さくなお方で。こちらのつたない質問にもいろいろと答えてくださいました。ご自身の個性的な音楽とはまた一線を画して、みしまさんの良さを彼女と一緒に模索している....プロデューサーとして親身に関わっているという姿勢を強く感じました。

◎◎◎ みしまさんのライブ情報を「臨時増刊19号」に載せています。
8月は4本! ちょっとビッグなイベントもありますヨ(^^)/

みしま・カオル公式ページ	http://www.pro-picasso.com/mishima/
Baghdad Guitar公式ページ	http://www.pro-picasso.com/baghdad/

-----*

◆◆◆◆
◆ ♪ ◆ ■ 最上三樹生の好評連載 ■ 「ピカソ」との時間 第17回
◆◆◆◆

アイドル歌手(^^「上原さくら」のお話の続きです。
男の世界だった「箱根サウンドボックス」に、正統派アイドル路線を歩んでいた「上原さくら」を迎えるに当たって、我々もちょいとした心配りをしました。クリスマスが近い時期だったので、玄関に続くスロープの手すりにちかちか光

る電球をあしらってみたり、玄関をクリスマスらしく飾ってみたり、最大の目玉は、リーダーがサンタの衣装で出迎えるというものでした(^^)。しかし、このもくろみは、意外に冷めた反応とともにあまり期待していたほどの盛り上がりを見せませんでした(^^)。でも、リーダーはその日一日サンタの衣装のまま黙々と仕事をしていたのでした(^^)。

彼女は、本格的なレコーディングに一から参加するというのは初めての経験だったらしく、僕らのペースに付いてこれません。当たり前ですけど(^^; みんなで、一斉に演奏して仮のボーカルも録るという手順を選んでいたのですが、ボーカルブースの中で、どこから歌い出していいのかわからず、不安な目をしてこちらを見ている。カラオケと違って、ガイドのメロディーも何も無いのですからしょうがないですね。私のポジションがちょうどボーカルブースの隣だったので、指でカウントを出して教えてあげました。この行為を繰り返している内に、一つのことを思い出しました。

我々の仲間であるエンジニアの森元くんが、丹波哲郎さんのボーカル録りをしたときの話です。歌い出す場所にきたら肩を叩くという作戦をとっていたらしいのですが、丹波さんは機械のごとく叩かれた瞬間に歌い出すのだそうです。音楽的な流れなど全く考えず、歌い出しの1拍前に叩かれるとそこから、半拍前だとそこから、見事に歌い出すのだそうです(^^)。さすがに、さくらはそんなことはなかったのですが...(^^)

でも、歌い終わった後に、「歌詞に出てきた「ピサの斜塔」ってなに？」って聞いてきました。恐るべし、さすがアイドル(^^)

この一連の上原さくらレコーディングは、翌年の5月くらいまで続いて「Cherish」というアルバムに収められているらしいです。多分探し出すのは困難だとは思いますが。何しろ、私も今まで一度も聞いたことがありません(^^;

◆◆◆◆◆
◆ ♪ ◆ ■ 編集後記 ■
◆◆◆◆◆

最近ソプラノリコーダーを買いました。その価格なんと380円！！同時に買った「みんなのうた」の楽譜集から「潮騒のうた」を探し出し、練習中です。子供のころより結構うまく吹けたのでちょっとうれしかったり・・・この夏のあいだにマスターできるでしょうか。それにしてもいい夏の思い出を作りたいなあ・・・・・・・・・・はあ。
(サトヨコ)

上原さくらさんの「Cherish」は96年9月に発売。リーダーと、「Boy meets girl」の尾上文(おのえ・ぶん)さんの共同プロデュース作品です。11曲中7曲が森さんアレンジ&演奏もピカソ御一行様。「ファッションも、ROCKだと思う。」というキャッチコピーが語る様に、ガールズポップを全面に押し出した、フォークロック色の強い仕上がりです。確かにレアなCDですが、私も地元の中古屋さんで見つけたので、興味のある方は頑張って、探してみてください。「Boy meets girl」のファンにかなり好評だったようですが、ピカソファンのにもかなりオススメです(^^) (ぎねね)

―― ☆ 投稿・ご意見はこちらへ(メールアドレス変わりました) ☆ ――
| メール : picatsu@gn2.sinfree.net |
| フォーム : <http://www.saturn.sannet.ne.jp/picasso/form.html> |

since 2000 :::: Picasso Newsmail All Rights Reserved.